

入学試験問題の講評 世界史（前期日程）

●出題のねらいと傾向

高校で学習する世界史の基本的知識を問う問題を、時代と地域のバランスを考えながら、幅広く出題しています。問題の形式は、大問が3つです。①と②は、特定テーマに関する問題で、長い問題文を読んでもらった後に、問いに答えてもらう形式です。大問ごとに5つの記述式の問いがあります。③は、単答式の選択問題で、世界史の全般にわたる個別的な基礎知識を問うています。

出題のねらいは、世界史の基礎知識が、「しっかりと」身につけているかどうかを確認するところにあります。クイズのように歴史用語、人物、年代を単純に暗記するのではなく、ある歴史的事象が、＜歴史の文脈＞のなかで、＜特定の時空間＞において起こったことを、＜具体的な歴史像＞として理解しているか否かを問います。

そのため、長い問題文を読んだ後で問いに答える形式をとっています。また、穴埋めだけでなく、正誤問題を多く配置し、歴史の因果関係を正しく理解しているか確認しています。さらに、歴史事象の具体的な理解ができていないかを問うために、史料の引用や図像を用いた出題を行っています。最後に、毎年、地図問題を出题していますが、これは時間と空間を正しく結びつけながら歴史を理解できているかどうかを問うためです。

●解答内容について(結果を振り返って)

今年は比較的正答率が高く、4日間全体としては70%を超える数字が出ています。大問の①、②、③を比較すると、③の正答率が若干高い傾向にはありますが、大問間の正答率に大きな差はありませんでした。記述式とマーク式の正答率にも大きな差はありませんでした。記述式については、比較的良好にできていたとはいえ、カタカナや漢字を正しく書けていない答案が目立ちました。また、西洋史と東洋史でも正答率の差はほとんどありませんでしたが、イスラーム関連の正答率が少し低い傾向がありました。

さらに、地図問題については、例年よりは正答率が高かったように思われます。国や支配地域の範囲に関する問題はよく解けていましたが、都市の場所を問う問題がうまく解けていませんでした。

今年は一般教養に属すると思われる文化史の問題を例年以上に多く出題していましたが、出題者の予想よりも正答率が低かったのは意外でした。特に、有名な作曲家、作者がどの時代に活躍したかについて、理解していない答案が多くありました。

総じて、政治史や制度の理解については比較的良好に理解できていましたが、生産・労働の現場、文化的業績、地図など、歴史の具体像を十分に把握してない答案が多かったように思えます。

●アドバイス

1. 出題の範囲は、教科書の内容です。まずは、世界史の教科書を丹念に読み込みましょう。
2. その際、＜歴史の流れ＞をしっかりと理解してください。歴史事象の生成・発展・衰退という3段階に注意して、なぜそれらの変化が起こったのか、因果関係を意識して、学習しましょう。そのためには、自分の手で、しっかりと＜ノートをつくる＞ことが大事です。歴史用語や歴史上の人物を調べたり、図を書いたりしながら、自分の言葉で歴史の流れを説明できる世界でひとつの「私の歴史ノート」を作ってみましょう。その際、カタカナ、漢字を正確に書くことにも気をつけましょう。記述式の対策にもなります。
3. 具体的な＜歴史のイメージ＞を作り上げましょう。そのためには、大事な歴史用語がでてきたら、いつ、どこで、誰が、どのようにそれにかかわったのか、言葉だけではなく、教科書や資料集にてくる地図、図版、文書の史料（たとえば有名な宣言の原文など）などを確認しながら、学習を深めましょう。大事なものは2であげた「私の歴史ノート」に、自分の手で書きこみましょう。
4. テレビやインターネットに出てくる歴史的事件、歴史的な文化作品と作者、有名な人物の生涯については、機会あるごとに、年表や図版を使って、いつの時代の、どの地域の話か、確認する習慣を身につけましょう。とくに、現代史については、メディアから得る情報は大きいので注意しておきましょう。

配点

201 (100点)

① 35点 ② 35点 ③ 30点

202 (100点)

① 35点 ② 35点 ③ 30点

204 (100点)

① 35点 ② 35点 ③ 30点

205 (100点)

① 35点 ② 35点 ③ 30点